

8 ヒメオオイワボタンを高知県でも見つけよう！

Chrysosplenium pseudofauriei H.Lév. var. *nipponense* Wakab.

ヒメオオイワボタン

[ユキノシタ科]

徳島県西部の限られた範囲に分布することが分かっています。大陸に分布するオオイワボタン *C. pseudofauriei* の種内分類群として1997年に若林三千男博士によって記載されました。花期は4～5月、萼裂片は黄色で、花の時期にはネコノメソウに似ています。しかし、ネコノメソウがびちょびちょの谷部や廃水田などに生える一方で、オオイワボタンは山地の湿潤で比較的日当たりの良い斜面に生えます。

◆ 募集する情報

- 画像 1. 生育地の環境が分かる写真
 2. 植物体全体
 3. 花（萼裂片や雄しべの色や数がわかるもの）
- 生育地点のGPS情報（緯度・経度）

見つけたかも！
と思ったら、
まず写真をお送りください

- 標本（10個体以上ある場合は1個体を採取してください。ただし、高知県内のものに限りません。**徳島県では保護活動中ですので、絶対に採取しないでください。**）

徳島県の自生地では2000年代に入ってからニホンジカの食害により激減しているそうです。高知県においては見逃されている可能性があります。徳島県と接する大豊町、香美市、馬路村などではニホンジカの食害が深刻ですので、探索は急務です！



ネコノメソウ



ヒメオオイワボタン@いがりまさし氏

ネコノメソウ属の最初に見るべきところは葉のつき方。次に萼裂片の色、葯の色、植物体に毛があるかないか、毛の量などです。また、花期と果実期の両期で観察するとより一層見分ける力がつくと思います。しかし、広義イワボタン*C. macrostemon*は、各種内分類群（狭義イワボタン、キシウネコノメ、ヨゴレネコノメ）にそれぞれ中間型があり、いがり氏も「ほかの種内分類群にあてはまらないものを狭義イワボタンとするしかないのが実情」というほど、見分けるのが難しい個体があります。

ネコノメソウ：ほふく茎のあらゆる節間から茎を伸ばす(広がって1個体がはっきりしない)
ヒメオオイワボタン：ほふく茎化した無花茎の先端にロゼットをつくりそこから茎をたてる
 (1個体が株立ちになりはっきりしている)

高知県のネコノメソウ属の検索表

葉は対生につく (ネコノメソウ節)			
種子に隆条がない (ネコノメソウ列)			
萼裂片は淡黄緑色、雄しべ4個 びちょびちょのところ		<i>C. grayanum</i>	ネコノメソウ
萼裂片は黄色、雄しべ8個 山地の湿潤で比較的日当たりの良い斜面		<i>C. pseudofauriei</i> var. <i>nipponense</i>	ヒメオオイワボタン
種子に隆条がある			
植物体は無毛 (イワボタン列)			
葯は明るい橙色 萼裂片は平開 雄しべは萼裂片より短い		<i>C. echinus</i>	イワネコノメソウ
萼裂片は斜開～直立 雄しべは萼裂片より明らかに長い		<i>C. macrostemon</i>	広義イワボタン
萼裂片斜開	葯は黄色・オレンジ色・暗紅紫色 種子の突起が短い	<i>C. m. var. macrostemon</i>	狭義イワボタン
	葯は暗紅紫色、種子の突起が長い	<i>C. m. var. calcitrapa</i>	キシウネコノメ
萼裂片直立	葯は暗紅紫色	<i>C. m. var. atrandrum</i>	ヨゴレネコノメ
植物体は有毛 (シロバナネコノメソウ列)			
萼片の先が尖る	萼裂片は白色	<i>C. album var. album</i>	シロバナネコノメソウ
	萼裂片は淡黄緑色	<i>C. rhabdospermum</i> var. <i>shikokianum</i>	トゲミツクシネコノメ
萼片の先は方形、花冠は上から見て 正方形に見える		<i>C. sphaerospermum</i>	コガネネコノメソウ
葉は互生につく (ヤマネコノメソウ節)			
地下に珠芽をもつ		<i>C. japonicum</i>	ヤマネコノメソウ
地下に珠芽をもたない		<i>C. tosasense</i>	タチネコノメソウ